

Rotary International District 2570

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

1st August, 2012 Vol.2

会員増強・拡大月間



未来のクラブのために

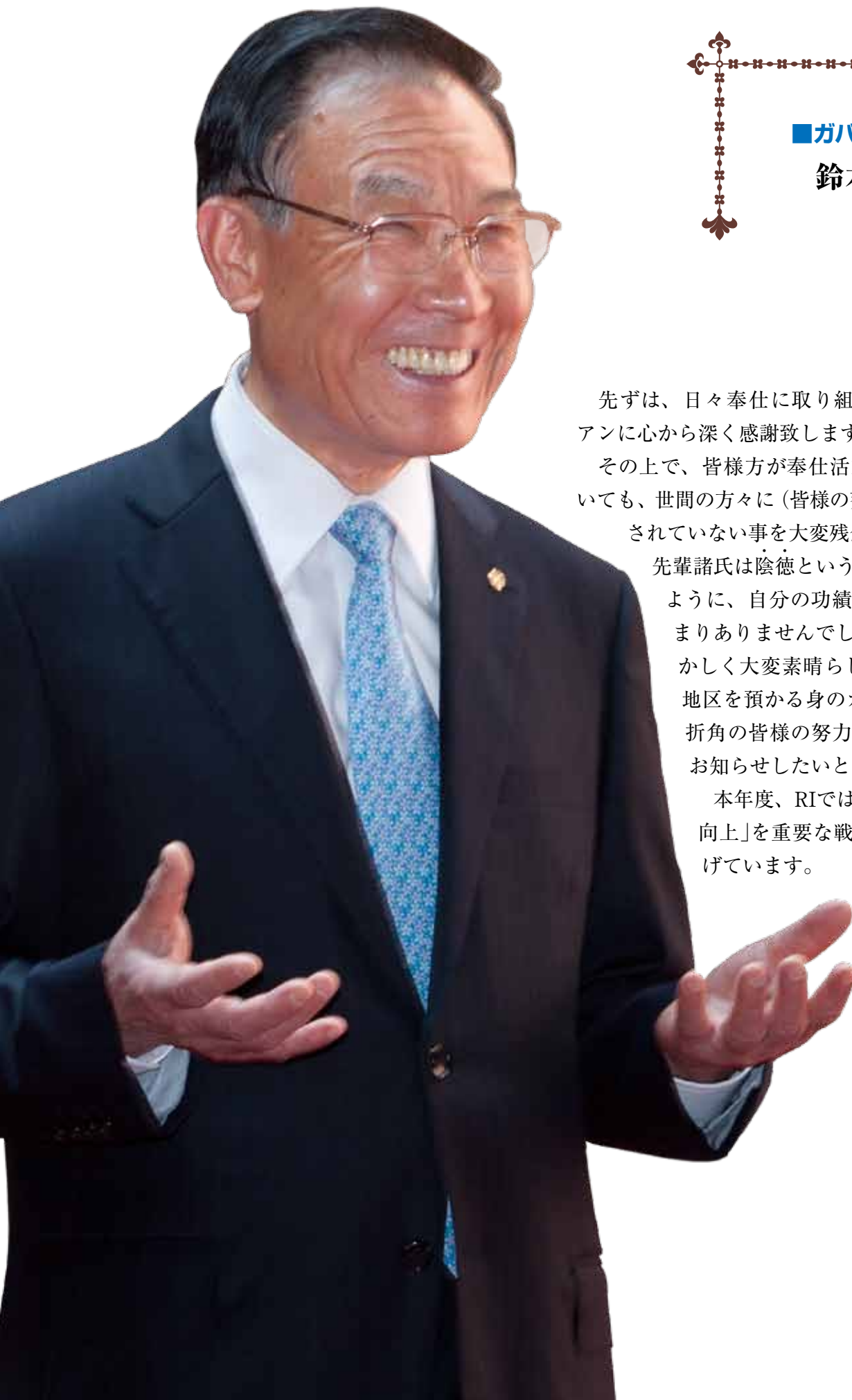
公共イメージ委員長
内山 明夫

クラブ奉仕部門委員長
山口 茂

会員増強委員長
高柳 育行

国際ロータリー第2570地区 2012～2013年度
ガバナー月信 2012年8月1日 **第2号**





■ガバナーメッセージ

鈴木 秀憲

まずは、日々奉仕に取り組んでいるロータリアンに心から深く感謝致します。

その上で、皆様方が奉仕活動を熱心に行っても、世間の方々に（皆様の努力の割には）認知されていない事を大変残念に思います。

先輩諸氏は陰徳という言葉で表わされるように、自分の功績を喧伝する事はあまりありませんでした。この事は奥ゆかしく大変素晴らしいと思いますが、地区を預かる身のガバナーとしては、折角の皆様の努力をもう少し世間へお知らせしたいとも思っています。

本年度、RIでは「公共イメージの向上」を重要な戦略項目の一つに掲げています。

公共イメージの向上を図り、 「ロータリー・スピリッツ」を広める。



本年度のRIテーマ「奉仕を通じて平和を」こそ正に全世界にわたる究極の公共事業です。この具体的な行動の一つに「ポリオ撲滅」があります。この「ポリオ撲滅」はRI会長の下、120万人以上のロータリアンが日々努力しており、あとちょっとの努力でポリオを地球上から撲滅できるのです。しかし、世間の方々はこの事、つまり「ロータリーが熱心にポリオ撲滅に努力している事、そして間もなく撲滅できる事」についてあまりご存知ないようです。

一方、多くのロータリアンが日頃行っているそれぞれの社会奉仕事業も、「奉仕を通じて平和を」程ではなくとも、公共のための事業です。しかし残念ながら世間へはうまく伝わっていないようです。

本来、社会奉仕は各クラブや個人が、各地域に必要な事業を行う事ですから、各地域での必要性は異なりますので、実施される事業は様々なものであって当然です。しかし一言でロータリーの事業と言った場合に、世間の方々はその概要を描きにくいと思います。この事は結果として当然ではありますが、RI戦略計画の「公共イメージの向上」を目指す観点からは、マイナスです。

世間の多くの方々に同じイメージを描いて頂くには、地区を挙げて行う社会奉仕事業が必要であると考えます。同じ埼玉にある二つの地区が同じ事業を行う事で「公共イメージの向上」は定着してくると思います。この事について第2770地区の田中徳尚ガバナーと何度も話し合い、当地区が地区を挙げて行っている社会奉仕事業

「さきたま古墳群を世界遺産へ」を田中ガバナーも受け入れてくれ、本年度は当地区から第2770地区へキャラバンに出かけます。

田中ガバナーからは、エコを訴える「打ち水大作戦」を提案頂き、急な事ではありましたが、当地区各クラブへ実施協力を依頼しました。結果、多くのクラブで協賛を頂き実施することができました。感謝申し上げます。

このような考えから、

1. 本年度の世界の会長が日本人しかも埼玉県八潮市出身の田中作次さんである事
2. ロータリーがいろいろな国際奉仕を行う中で、ポリオ撲滅に特に注力し、もう少しの努力で撲滅できる事
3. 2570地区と2770地区がそれぞれの事業を行いながら、「さきたま古墳群を世界遺産へ」を協力して行う事

上記を中心に、世間（先ずは埼玉県内）へ発信すべく、次頁の特集記事を埼玉新聞に掲載してもらいました。

埼玉新聞は地方紙で購読部数は一般紙に比較すれば少ないですが、国の出先機関をはじめ県やその出先、各市町村、教育施設、或いは比較的大きな企業、民間団体等、地域でのオピニオンリーダーに良く読まれており、世間への影響は大きいと思います。

今後も、この地方紙を活用してロータリーの奉仕活動を世間へ発信し、公共イメージの向上に努めたいと考えています。

Sekuji

「さきたま権群」は5〜7世紀の古墳。9基の大型古墳が群集していた。二子山古墳と稲荷山古墳、鉄砲山古墳、丸墓山古墳は100メートルを超える。丸墓山古墳は直径100メートルで日本最大の円墳。

1938年に国指定の史跡となつた。1968年に稲荷山古墳から金錯銘鉄剣が出土し、83年(国宝)に指定。金錯銘鉄剣に記された15文字は5世紀の古代国家を知る手がかりになるといわれている。

ロータリーには「さきたま古墳群は貴重な財産。世界遺産に登録。次世代に伝えていきたい。」まて、この事を通して、郷土愛や地元意識の醸成を促したい」と、郷土史を

[illegible]

只今、『さきたま古墳群』紹介DVD製作中！

社会奉仕部門地区事業委員長 **新井 啓介**（行田さくら）

昨年度に引き続き、「めざせ世界遺産！」活動を推進するためのツールとしてのDVD製作が、最終段階に入りました。そこで、上田埼玉県知事に、応援メッセージを頂くべく、鈴木ガバナー、小川行田商工会議所会

頭、鈴木埼玉県議会前議長、他数人で、知事公舎を訪問致しました。上



田知事は、さきたま古墳の歴史的価値について見識が非常に深く、いろいろお話頂きました。特に、倭の五王の時代のさきたま古墳群との繋がりが、金錯銘鉄剣の発見により証明されたことは、歴史的に大変貴重な意義あることである等々、熱心にご教授頂きました。

今年度「さきたま古墳を世界遺産へ」の活動は、第2770地区とも連携をして、埼玉県全体へ活動を広げてまいります。合わせて、プライダル事業も合同で行なうことも実施し、より実りある事業にしていきたいと思いますので、会員皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

読売新聞・川越支局長からの手紙

月信 7月号、7ページ掲載の西川地区研修リーダー挨拶の後日談（本誌10ページ参照）

西川 武重郎様

先日は読売新聞の「日時計」で、西川さんにお聞きした話を取り上げさせていただき、ありがとうございました。コラムを見た読者の方や私の取材先からも、西川さんの提



読売新聞 川越支局長 竹田 淳一郎

唱でこうした意義のある尊い活動が行われていることに感銘を受けたというたくさんの声を頂きました。ぜひ、今後も震災で夢を失いかけた子どもたちが、希望を持って生きていける世の中にするために、この活動を続けてもらえることを陰ながら願っています。

先日、取材で取り上げさせていただいた川越市の画家・広瀬保彦さんに、西川さんの心を動かした少女の写真モデルにした絵を描いていただきました。広瀬さんは現在、78歳で、半世紀以上、映画の看板を描き続けてきた方で、最近、東日本大震災から1年が経過した今年の3月11日にふるさtoに向けて祈りを捧げる福島県双葉町の親子の絵を描き、読売新聞でも取り上げさせていただいた方です。西川さんが先日、涙を流しながら、語っていただいた被災他の子toへの愛情に感銘を受けた一人として、勝手ながらこの絵をご進呈させていただきます。

未来のクラブのために

クラブ奉仕部門委員長 山口 茂 (熊谷南)

6月2日開催第1回会員増強セミナーのご出席ありがとうございました。(配布資料の活用奨励)

加藤玄静様 (PDG)の基調講演、浅田進様 (RLI地区研修委員)はじめ5人のDL (梅澤將明様、磯田力彦様、大澤衛様、細井保雄様、茂木正様)のご協力により、当地区といたしました初のRLI方式によるセミナーを開催実施させていただきました。

鈴木秀憲ガバナーは、第2570地区クラブ奉仕部門に会員増強委員会 (高柳育行委員長)と公共イメージ委員会 (内山明夫委員長)を設置し、2つの委員会によって、少しでも協力・支援が貴クラブにできるようにと考え、年4回のセミナーの開催を決定致しました。

クラブ奉仕部門方針 (クラブのサポートと強化)

- 1、ロータリアンが世間から尊敬され、憧れの対象となるべく委員会の意識向上
- 2、クラブ内にて職業分類を行い、空白、未知の分野を埋めるように新会員勧誘 (純増1名)
- 3、各クラブでは、例会プログラム内容を充実して、会員が明るく、ためになり、活気ある例会づくりの支援
- 4、新会員の入会式の実施、オリエンテーションと、他クラブのメイクアップの奨励
- 5、ロータリーブランドのバッジの着用

各クラブにて将来のあるべき姿、理想のクラブづくりのために、各会長に「会員増強何名」と発表して頂くことを希望しております。新会員の入会式、オリエンテーション、他クラブへのメイクアップによって、ロータリアンの輪が広がり、多くの友人ができて、楽しくなるのではないのでしょうか。

又、地区セミナー出席時に、ロータリーブランドのバッジ未着用者が見受けられます。ロータリーの認知度の向上には、我々会員が、バッジに誇りを持って着用することにより、ロータリーを知らない方への認知度向上、イメージアップの第1歩となるのではないのでしょうか。

各クラブにて、ロータリーの基本である幹はぶれず、良いことは残し継続し、そして今の時代に合わせたの、クラブ運営、例会の実施が必要なのではと受け止めております。

貴クラブ、会員の皆様のご協力とご支援により、鈴木秀憲ガバナー年度はクラブ奉仕部門、高柳育行会員増強委員長、内山明夫公共イメージ委員長、各委員が協力しあいながら、最大の努力を致しますので、1年間よろしくお願い致します。

会員増強セミナー	
第1回	6月2日 (土)
第2回	10月20日 (土) 会場:ホテル紫雲閣(東松山市)

公共イメージアップセミナー	
第1回	7月14日 (土)
第2回	平成25年1月19日 (土) 会場:ホテル紫雲閣(東松山市)

写真右下: 鈴木ガバナーとクラブ奉仕部門委員会→



優先課題の会員増強

クラブ奉仕部門会員増強委員長 高柳 育行 (本庄)

山口クラブ奉仕部門委員長のもとで、会員増強を担当させていただきます。以前より会員増強がロータリーにとっての優先課題と言われております。毎年、各クラブでは新会員の獲得を目指してご努力をされていることでしょう。しかしながら当地区では会員の減少が続いており、このことは日本全体を見渡しても同じ傾向にあります。ではその効果的な対応策というものが無いのでしょうか。

鈴木ガバナーは「ロータリアンが世間から尊敬され、憧れの対象になるよう心がけよう」と言われ、自分たちの意識を高めることが、新会員を迎えることにつながると話されております。会員増強セミナー等では単に新会員獲得のための方法が求められがちですが、毎年取り組んできた結果がこの状況なのであれば、じっくり構えて、現会員が現状を振り返り、新たな取り組みを積極的に行う必要があるように思います。

過日開催しました会員増強セミナーは、加藤パストガバナーによる「会員増強は永久の課題か」といテーマの基調講演とRLI方式によるセッションという組み合わせで開催しました。DLの素晴らしい進行とともに、出席者の積極的な発言もあって、有意義なセミナーが開催できたのではないかと考えております。会員数を参考にしたグループ分けにした関係から、グループごとに同じような課題を議論することで、解決の糸口が見つかったのではないかと期待しております。

自分自身のことを振り返ったとき、改めてロータリアンで良かったと思っています。素晴らしい「師」となるような方々に出会ったこと、そして現在でもその方々にご指導を頂いていること、ロータリーは人を作ると言われますが、遊び友達を得る以上に素晴らしい



ことであると思っております。そんなロータリークラブに新しい仲間が入ることは、新しい世界に触れ、より広い世界に触れ、そして充実した人生を歩むことができるようになると思います。

退会の理由として、経済環境、高齢や病気、例会時間や例会費などあげられていますが、よく考えてみれば、建設的な親密な人間関係が築けていないことにも原因があるのではないのでしょうか。ロータリーに熱心だったロータリンが高齢になって、熱意が低下してきたようにも思います。先輩から様々なことの教えを頂

セミナ



RLI 方式のセッションの様子

きましたが、私たちは先輩を大切にする気持ちを忘れてはいけません。ロータリーを通じた会話、あるいは議論のなかに、新会員の獲得と現会員の退会防止につながるヒントが見つかるように思います。

今年度の会員増強委員会としては

- ・ 会員純増 1 名
- ・ 職業分類の未充填を埋める新会員の勧誘
- ・ 女性会員入会の奨励
- ・ 新会員の入会式の実施と他クラブへのメイクアップの奨励

をあげさせて頂きました。各クラブにおきましては上記のことを参考にして取り組んで頂きたいと思います。第 2 回会員増強セミナーは 10 月 20 日 (土) を予定しています。これらのセミナーを通じてクラブで増強について論じて頂き、行動するようになって頂けたら幸いに思います。

現会員や新会員が納得するクラブづくり、会員として誇れるクラブづくり、会員同士が楽しみ学べるクラブづくり、それぞれのクラブで「いい風が吹く」ことを会員増強委員会として願っております。

クラブ奉仕公共イメージセミナー

クラブ奉仕部門公共イメージ委員長 内山 明夫 (東松山むさし)



本年度のクラブ奉仕部門「第1回公共イメージ委員会セミナー」が7月14日(土)に開催されました。

鈴木秀憲ガバナーの挨拶では、「ロータリーの公共イメージと認知度向上」が本年度RI戦略計画の3つの重要項目の一つであることを述べられました。

第1部では、まず、山口 茂クラブ奉仕部門委員長より、「セミナー趣旨説明」があり、本セミナーの役割・位置付け・重要性が熱く語られました。

続いて私が「公共イメージ向上と広報活動はなぜ必要か?」との委員長発表を行い、公共イメージ向上・広報活動＝会員増強活動であり、両者は車の両輪であるとの説明を行いました。さらに、マスコミやメディアに取り上げて頂くには、いかに地域や社会に受け入れられる公共性の高い奉仕活動が大切か!とお話をさせて頂きました。

次に、西川武重郎地区研修リーダーより「ロータリーの公共イメージとは」との基調講演が行われました。特に参考事例として西川地区研修リーダー自身が立ち上げ、読売新聞に掲載された「ロータリー希望の風奨学金」について、その社会性や公共性について詳しく説明をされ、又、マスコミに取り上げられることの重要性を講演して頂きました(5ページ参照)。

第2部は、「2570地区内クラブではどのような公共イメージアップの広報をしていますか?」とのタイトルでパネルディスカッションを行いました。

地区セミナー初の試みで、鈴木ガバナーが自らコーディネーターを務め、第1グループから第5グループの各ガバナー補佐5名がパネラーを務めるという大変豪華な顔ぶれの中、パネルディスカッションを行いました。ガバナー補佐の皆さんにはグループ内クラブ、昨年度の奉仕活動と広報活動事例の発表・討議と今後の計画や方針の発表を行い、又、会場内の参加者も交えて意見交換をしました。

各クラブがそれぞれ大変すばらしい奉仕活動と公共イメージ向上・認知度向上への広報活動を実践していることがわかり、私自身も大変勉強になりました。

今回のセミナーが2570地区と各クラブの活動の一助になれば大変嬉しい限りです。

又、セミナーの開催にあたり、ご指導、ご協力を頂きました地区役員の皆様と委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。



日時：2012年7月14日(土) 13:00～16:00

会場：ホテル紫雲閣(東松山市)

出席：46クラブ 90名(会長・広報担当委員・地区役員)

よねやまナウ

米山記念奨学部門委員長 井上 豊 (秩父)



2012～13年度「第1回米山記念奨学部門セミナー」を7月8日、東松山市「紫雲閣」にて開催致しました。米山記念奨学生、カウンセラー、クラブ米山委員長、会長さん達90名に参加して頂きました。

ロータリー米山記念奨学事業とは、日本で学ぶ留学生を支援して、世界に平和の種をまく日本ロータリー独自の多地区合同奉仕活動です。

米山記念奨学会 金子千侍 理事から奨学事業の成り立ちなど基本的な事柄について丁寧に説明をして頂きました。

井上部門長は「言葉は いかに関えられるか?」という事を、実際に絵を描いて体験してもらいました。

これは8項目の指示に対して、参加者が感じた通りの絵を書くといったものですが、わずか8項目の指示であるのにもかかわらず描かれた絵は、どれも違うもので質問が違ったのかと思われるようでした。一つの事柄を言葉だけで伝えることの難しさを認識すると共に、奨学生とロータリアンでは伝わり方も変わる事に驚かされました。

次に、1万円札と1円玉をイメージして描く指示をしました。描かれたサイズに、その人が思っているお

金の価値の大きさが現れるようです。描かれたものを比べ合ってカウンセラーと奨学生、ロータリアンが笑顔を作りリラックスした雰囲気を作る事ができました。

その後の米山記念奨学生たちによるスピーチは「米山記念奨学生になる前の生活」や「これからの夢」「例会に出席してロータリーの活動を知った事」「私も将来は、皆さんのようなロータリアンになります」など奨学生の意気込みが伝わってくる内容のあるスピーチで、米山記念奨学事業の価値を多に感じる事ができた時間となりました。

また、奨学生には地区委員が『内容、態度、分かりやすい日本語だったか』などスピーチのチェックをして、今後の発表等に活かせるように臨みました。

結びに、国内ロータリアンが減少している現在、米山記念奨学事業を含め「ロータリーの夢」実現の為に『ロータリアンの 本気力!』を今こそ発揮して、『いい風』を迎え入れようとの井上部門長のまとめで終了しました。

参加された皆様方に心よりお礼を申し上げます。今後とも米山記念奨学会へたゆまぬご理解ご支援を切にお願い申し上げます。

2570 地区各グループから、新入会員を1名ずつご紹介致します。

入会し1年が過ぎました

第1グループ(小川 RC) 村田 幹昌



国際ロータリーの話は、1965年頃から聞いていました。入会して1年が経過し、毎週の例会と行事に参加し、ロータリークラブの素晴らしい活動を改めて認識しました。

学ぶことが多く、1年や2年では歴史あるロータリーの内容を全部把握することは困難ですので徐々に学んでいきたいと思います。

加入して困ったことは、「RI」、「RC」のように、略称で会話がされることと、ロータリークラブ特有の言葉に慣れるまで違和感がありました。

一つひとつの会合に参加することで、楽しい思い出もたくさんできました。家族親睦旅行で両国国技館での相撲観戦、翌日は片桐会員も合流してのキャピトルホテル東急での東京山の手RCの例会場で、そこにメイクアップ、など。地区大会チャリティゴルフ、川越ロータリークラブ60周年記念大会・東京ゴルフ倶楽部でのプレー、他のクラブの会員の皆様と一緒にプレー出来たことは、いい親睦だと思います。

ロータリーの奉仕の理念を实践できるよう努力していきたいと思っています。

ロータリークラブに入会して

第2グループ(朝霞 RC) 細田 秋男



同じ理想を持っている会員の方々と交わり、自分を客観的に見つめ自己研鑽をし成長できると思い入会させて頂き、入会当初も今も先輩にロータリー会員としての心構えを学んでいるところです。ロータリー会員として、社会や他人に奉仕し、成長と安定に力を尽くすなど、少しずつ勉強させて頂いている最中ですが、そのメッセージの一部しか実現できず、今もなお、自分の職業とロータリー活動の間で試行錯誤しながらロータリーに関わっています。全く未知のロータリーに入会させて頂き、多くの方々と親しく接することができていることは、大変嬉しいことです。

ロータリークラブは、人と人の繋がりが深まる場所であることを実感しています。

ロータリークラブの例会がうまく運営されていることや、奉仕活動が入念に計画され社会の役に立っていることなど、それぞれの会員が職業や地域社会で尊敬されていればロータリークラブの姿が見えてくると思います。

私は、これからもロータリークラブの心を追い求めていきたいと思っています。

例会の度に新しい発見

第3グループ (所沢中央 RC) 石井 和宏



所沢中央ロータリークラブの石井和宏と申します。私がロータリークラブに入会したきっかけは、今年度副会長をされている宮本さんに仕事上で大変お世話になっており、その宮本さんから「まったく違う職種の人達と親交を深める事も人生のいい勉強になるよ」とお誘い頂いたことです。

実際に、仕事上だけでは決してお会いすることのできない方々と職業、年齢の分け隔てなくお話しさせていただき、例会の度に新しい発見があります。

ロータリーで使われる言葉の意味、奉仕の理念など、まだまだ勉強不足で理解できていませんが、「四つのテスト」を常に心がけ、一人でも多くの方々と親交を深められればと考えています。

これからも宜しくお願い致します。

出会いと成長

第4グループ (深谷ノース RC) 神尾 英樹



ロータリークラブに入会したのは、ちょうど1年くらい前だったと思います。前年度会長の小野さんから、ずっと勧められて来ました。仕事の方でも大変お世話になっていたので、小野さんの情熱に負けて入会を決めました。入ってみると私が一番の年下でした。しかし、深谷ノースの皆さんはとっても気さくで大変優しく接して頂きました。年上の方達と知り合いになる機会はなかなか無く、いろいろとためになるお話をたくさん聞かせて頂き、私自身この会に入会して大変成長を感じます。そして、毎週の例会が楽しみです。

ロータリーの活動もとっても興味深く、特に国際交流など姉妹クラブへの訪問など留学生の受け入れなどに大変興味がありました。残念ながら前年度は、姉妹クラブへの訪問はできませんでしたが、機会があれば是非参加したいです。

今後の目標は、もっともっとクラブの活性化に努めたいです。それには、新入会員の増強をはかり積極的に交際奉仕や社会貢献をしてい来たいと考えています。最後にこのような、クラブに入れてみなさんとお知り合いになれた事に感謝しています。

素晴らしい先輩に導かれ

第5グループ(熊谷 RC) 田中 哲夫



私の入会のきっかけは、熊谷ロータリーの2010～2011会長の前嶋さんと幹事の井埜さんからの熱心なお誘いによるところが大きなウエイトを占めています。

正直なところ、50代の後半ともなると、自分のお城(自分の事業範囲)での環境は誠に居心地がよいのが現実です。40年近くに渡り自分で築いてきた組織があり、その頂点に長らく留まると、トップでいることに慣れてきている自分がいます。己にムチ打つ気持ちがあっても、いざとなると二の足を踏みます。前嶋さんは税理士、井埜さんは小児科・内科のドクター(開業医)で、ご自分の事業のみならず前嶋先生は税理士会、商工会議所で、井埜さんは医師会(小児部会の会長兼理事)の重鎮で活躍されていることに常々尊敬の念を抱いておりました。

ご自分の事業が忙しいのに業界及び地域発展のために貢献されている、その上にロータリーの活動を熱心にされていることに、大きなショックを受けました。素晴らしい先輩との出会いなしにロータリーは語れません。一步でも2人に近づく努力をしたいと思う毎日です。

8・9月のスケジュール

8月

1	水	(公式訪問) 川越西
3	金	(公式訪問) 熊谷
4	土	職業奉仕部門セミナー(国立女性教育会館) 第46回インターアクト年次大会(大妻嵐山高校)
6	月	国際奉仕部門合同委員会(紫雲閣)
7	火	(公式訪問) 所沢
8	水	(公式訪問) 飯能
14	火	米山奨学生秩父音頭招待(～15日)
20	月	(公式訪問) 新狭山
21	火	(公式訪問) 深谷
22	水	(公式訪問) 寄居
23	木	(公式訪問) 新座
24	金	(公式訪問) 和光
27	月	(公式訪問) 本庄南
28	火	(公式訪問) 羽生
29	水	ロータリーの友 地区セミナー(国立女性教育会館)
31	金	(公式訪問) 川越小江戸

9月

1	土	社会奉仕部門セミナー(狭山市勤労福祉センター)
3	月	(公式訪問) 熊谷西
4	火	(公式訪問) 越生毛呂
6	木	(公式訪問) 入間
8	土	ロータリー財団部門セミナー(国立女性教育会館)
11	火	(公式訪問) 新所沢
12	水	(公式訪問) 加須
13	木	(公式訪問) 本庄
24	月	(公式訪問) 川越中央
25	火	(公式訪問) 行田さくら
27	木	(公式訪問) 行田
28	金	(公式訪問) 狭山

ロータリー川柳

ロータリー 八十路の俺の 生甲斐さ 小澤 誠邦 (行田さくら)	例会日 妻は笑顔で 送り出す 小澤 誠邦 (行田さくら)	川柳で 二匹目狙う 柳下 矢澤 大和 (ガバナー月信担当副幹事)	ロータリー 生甲斐にして 茶壽目指す 小澤 誠邦 (行田さくら)
--	---------------------------------------	---	---

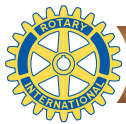


表 彰

メジャードナー



宮前 英雄
(皆野・長瀬RC)

ベネファクター



大附 富吉
(飯能RC)

マルチプルロール・ハリス・フェロー



山岸 敬司
(飯能RC)

米山功労者

16回



宮前 英雄
(皆野・長瀬RC)

編集部から

お詫びと訂正

月信7月号(No.1)の8ページ「ガバナー補佐紹介」の第1グループ補佐、竹間氏のお名前に間違いがありました。正しくは

第1グループガバナー補佐

ちくま あきら
竹間 暎 (東松山)

でした。謹んでお詫び申し上げ、訂正致します。

◆◆◆◆◆ロータリー川柳募集◆◆◆◆◆

立原年度に好評をいただきました「ロータリー川柳」を、今年度も引き続き募集致します。少ない文字数だからこそ、ロータリーの精神や意義が浮き上がってくるのが川柳の魅力です。詠んでは身に沁み、読んででは心に響く、ロータリーに関したウィットに富んだ作品をお寄せ下さい。

投稿は、「氏名・クラブ名」を明記の上、メール、FAX、はがき等で、ガバナー事務所・月信・川柳係宛お送り下さい。

一カ月に1回、お一人3句までとさせていただきます。応募多数の場合は、月信編集部で選考させていただきます。

新入会員のご紹介

(熊谷南RC)



小沢 高広
おざわ歯科医院 医院長
(紹介者) 李一孝、渡邊藤男

(深谷東RC)



高木 学
SMBCフレンド証券(株)本庄深谷支店 支店長
(紹介者) 生駒純一より後任

(所沢中央RC)



西川 優
所沢公証人役場 公証人
(紹介者) 野口 尚彦

(皆野・長瀬RC)



浦島 秀之
南須原医院 事務長
(紹介者) 高田 富康

(熊谷東RC)



曽根崎 彰一
東熊谷歯科クリニック 院長
(紹介者) 草薙友光子、小川 智

(川越中央RC)



笹森 貴嗣
内装センター(株) 代表取締役 社長
(紹介者) 立川 孝矣

(川越中央RC)



倉沢 延寿
倉沢建設(株) 代表取締役 社長
(紹介者) 立川 孝矣

(川越中央RC)



齋藤 弘一
オフィス サイトウ 代表
(紹介者) 山崎 正博

きんぼうざんへいりんぜんじ

金鳳山平林禅寺

～ RI2750地区第2グループを見守る名利～

朝霞、ふじみ野、志木、富士見、新座、和光をエリアとする国際ロータリー 2570地区第2グループ。池袋から電車でわずか30分余りのこの地で市民の生活の礎になっているのが関東一円にその名もとどろく名利「平林寺」。武蔵野の面影を色濃く残す野火止台地に約13万坪の境内地を有する臨済宗妙心寺派の禅寺です。

平林寺は永和元年(1375)現在のさいたま市岩槻区に建てられましたが、豊臣秀吉による関東攻略・岩槻城攻めにより天正18年(1590)に焼失。翌年徳川家康により再建されたのち、幕府の老中で川越藩主となった松平信綱によって江戸と川越の中間にある所領、野火止原野に移建する計画が立ち上がりますが信綱は志半ばにして逝去。その遺言を受け継いだ子、輝綱によって寛文3年(1663)現在の新座市野火止3丁目に移築され、後に大河内松平家の支配となります。以降今日まで350年間、武蔵野の人々の暮らしを見守ってきました。

荘厳なる禅宗の歴史的建造物の美しさ

川越街道に面し、人々の喧騒から隔絶した荘厳な境内を守るのが「総門」、

京都詩仙堂の石川丈山による「金鳳山」の扁額が掛けられています。この門をくぐり抜けると眼に飛び込んでくるのが凛とした紅葉の木立と「山門」、そして山門越しの奥に見える「仏殿」。どちらも寛文3年に岩槻にあったものを解体・移築後補修したもので、350年の歴史に耐え抜いた今日、「中門」と合わせた4棟は県指定有形文化財となっています。

さらにその先、本堂の脇の雑木林を通り抜けた奥に鎮座するのが大河内松平家歴代の廟所、そして中央に位置するのが川越藩政において武蔵野新田開発や野火止用水開削などで多くの功績を残した松平信綱の墓です。

四季折々に人々を楽しませてくれる武蔵野の自然

平林寺のもう一つの魅力が伽藍を包み込む樹齢500年の高野槇ほか手の行き届いた庭園と、武蔵野の広大な雑木林の数々。スギ、ヒノキ、シラカシ、クヌギ、コナラなど修行道場にふさわしい静寂な雰囲気醸し出しているこの林は、武蔵野の自然環境を今に残す林として1968年から国の天然記念物に指定されています。



夏には小鳥のさえずりと木々の緑が尊厳なる涼をもたらし、秋には空を彩り絨毯のように引きつめられる紅葉。雪に埋もれる冬の景色もよし、春には満開のしだれ桜が迎えてくれる平林寺。この名利は2570地区の一角に位置する武蔵野台地の心の故郷です。

文と写真：副幹事・五十幡 和彦(行田さくら)

ガバナー月信 第2号

2012年8月1日発行

今月の表紙：

公共イメージ委員長 クラブ奉仕 会員増強委員長
部門委員長

内山 明夫 山口 茂 高柳 育行

2012-2013年度ガバナー 鈴木 秀憲

国際ロータリー第2570地区 地区事務所

〒355-0028 埼玉県東松山市箭弓町2丁目5番14号 紫雲閣3F

TEL (0493) 21-2570 E-mail = d-office@mail.rid2570.gr.jp

FAX (0493) 21-2571 Website = http://www.rid2570.gr.jp/2012/